

2022 年度（令和 4 年）

事業報告書

社会福祉法人 福寿会

目次

1. 事業の実施報告	3
2. 職員の状況	4
3. 理事会及び評議員会	5
4. 部門別事業報告	6
(ア) 特別養護老人ホームならやま園 (定員 84 名)	6
(イ) ならやま園ショートステイサービス (定員 16 名)	13
(ウ) ならやま園デイサービスセンター (定員 39 名)	14
(エ) ならやま園ホームヘルプステーション	15
(オ) ならやま園居宅介護支援事業所	15
(カ) ケアハウスニューライフならやま (定員 15 名)	16
(ケ) 特別養護老人ホーム平城園 (従来型定員 70 名、ユニット型定員 40 名)	19
(コ) 奈良デイサービスセンター (定員 30 名)	28
(サ) 平城園ホームヘルプステーション	28
(シ) 平城園ショートステイサービス (定員 10 名)	29
(ス) 平城園在宅介護支援センター	30
(セ) ヴィラ秋篠	31
(ソ) 平城園診療所	33
(タ) 福寿会マミーズ保育園	34
(チ) 福寿会配食サービス (奈良市委託事業)	35
(ト) 登美ヶ丘マミーズ保育園 (定員 90 名)	40

1. 事業の実施報告

令和4年度は、引き続きコロナウイルスとの戦いの年度となりました。当法人では、感染症対策の緩和を進める中で、コロナウイルスの感染が確認されましたが、感染の拡大は限定的であり、ウィズ・コロナの業務の在り方が見えてきました。これからは、長引くコロナ禍の中で失った日常を取り戻していきたいと思います。

令和4年度のテーマは、地域共生、人材育成、デジタル化でした。

地域共生については、グループホーム、整形外科クリニックの開設を予定していましたが、建築の遅れに伴い開設が令和5年6月にずれ込みました。引き続き、令和5年度の継続事業として取り組み地域高齢者の健康寿命延伸に貢献して参ります。

人材育成についてです。令和4年度には人事部を設置し、人材育成含む人事専任の担当者を設置いたしました。令和4年度は、新施設開設に向けた採用活動が中心となりましたが、人員安定後は人材育成に注力して参ります。

最後に、デジタル化についてです。令和4年度は、見守りシステム、インカム、移乗ロボットの導入を行いました。全て令和5年2～3月の導入であり、本格稼働は令和5年度になります。見守りシステムの導入により、夜間の見守り負荷軽減、ご利用者の転倒リスク軽減に繋がってまいります。インカムについては、職員間コミュニケーションの円滑化を図り、業務効率化に繋がってまいります。移乗ロボットについては、ご利用者の移乗時にロボットを使用することで、ご利用者自身の不安軽減、職員の負荷軽減に繋がって参ります。

令和4年度は新施設開設に伴う補助金に加え、ICT補助金や老朽化施設改修補助金等を活用し、多くの投資を実施いたしました。新施設の建築、見守り機器等の導入、老朽化したならやま園の改修工事に加えて、福利厚生に寄与するシステムの導入や、人事制度の見直し等も進めております。その為、令和4年度はキャッシュポジションを大きく落としております。それに合わせて、取引金融機関に資金調達枠を設定したため、資金繰りに大きな懸念はありませんが、令和5年度以降、投資を回収する年度とし財務面の安定を図って参ります。

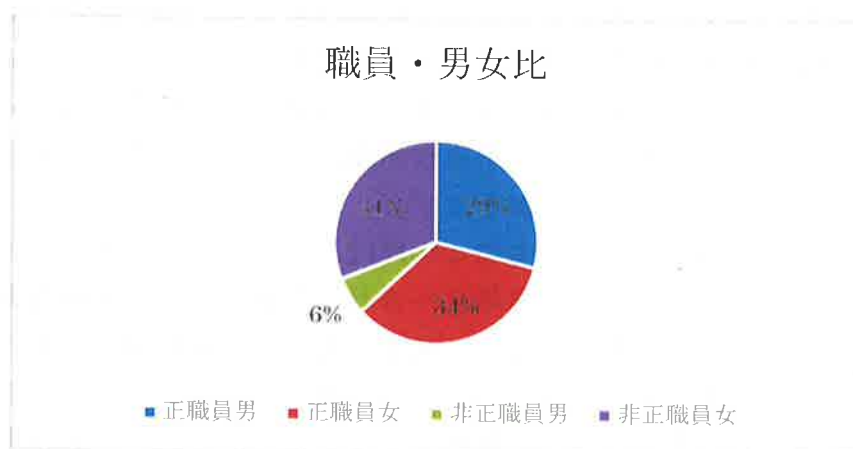
2. 職員の状況

(R5. 3. 31 現在)

	ならやま園	平城園	ヴィラ秋篠	登美ヶ丘マミーズ 保育園	計
正職員	73 名	82 名	5 名	19 名	179 名
非正職員	39 名	49 名	7 名	11 名	106 名
計	112 名	131 名	12 名	30 名	285 名

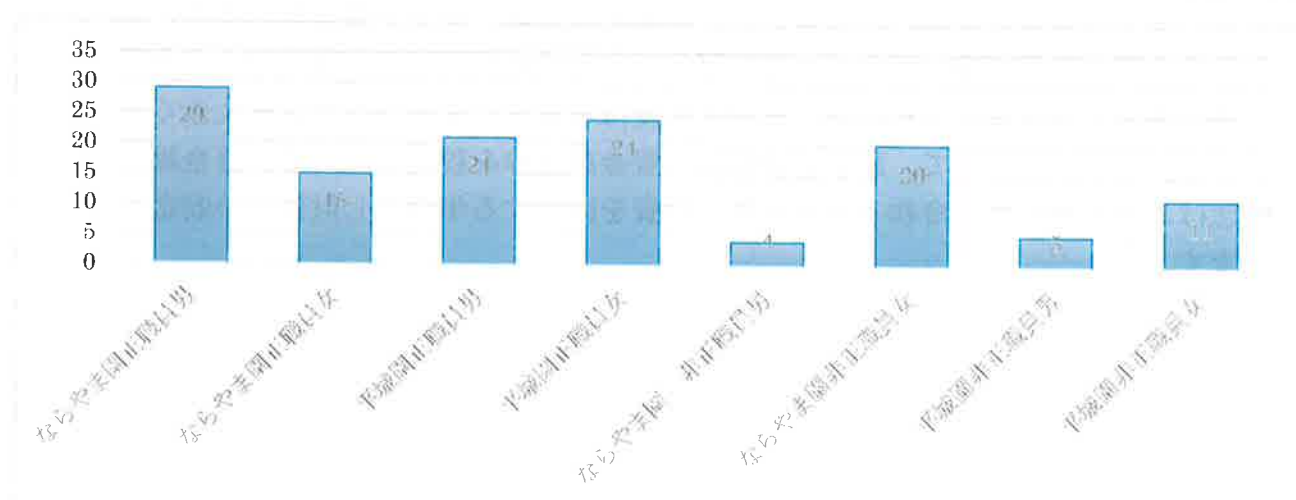
(内 産休・育休：2 名)

① 職員・男女比 (全職員)



② 特養職員配置 (介護職員＋看護職員)

(単位：人)



3. 理事会及び評議員会

(ア)理事会

決議日	主な審議事項
令和4年6月8日	提案事項 ・令和3年度事業報告及び令和3年度計算関係書類及び財産目録の承認 ・令和4年度定時評議員会の日時及び場所並びに議題の決定 ・就業規則の一部改正 ・報告事項
令和4年7月7日	提案事項 ・グループホームの建設業者を決定する指名競争入札について
令和4年8月22日	提案事項 ・電子カルテ・X線撮影機器の導入業者を決定する件 ・グループホーム・整形外科クリニックの施工業者の決定の件 ・特養ならやま園・ケアハウスの老朽化に伴う大規模改修施工業者を指名競争入札方式で決定する件 ・有料老人ホームの土地建物について、定期建物賃貸借契約を締結する件
令和4年11月5日	提案事項 ・特養ならやま園・ケアハウスの老朽化に伴う大規模修繕工事施工業者決定の件 ・新たな人事評価制度を策定するため、人事コンサルティング業務の委託先の選定方法について指名型プロポーザル方式を採用する件
令和4年11月26日	提案事項 ・新たな人事評価制度を策定するため、人事コンサルティング業務の委託先を決定する件 ・給与規程の一部改正 ・公用印章管理規定を廃止し、新たに印章管理規定を策定する件
令和5年3月8日	提案事項 ・令和4年度補正予算案の承認について ・令和5年度事業計画並びに収支予算案の承認について ・基本財産の処分について ・定款の一部改正について ・経理規程の一部改正について ・令和4年度第2回評議員会の招集の件 - 他

(イ)評議員会

決議日	主な審議事項
令和4年6月23日	提案事項 ・令和3年度計算書類・財産目録の承認の件 ・報告事項
令和5年3月23日	提案事項 ・令和4年度補正予算の承認の件 ・令和5年度事業計画並びに収支予算の承認の件 ・基本財産の処分の件 ・定款の一部改正について - 他

4. 部門別事業報告

(ア)特別養護老人ホームならやま園 (定員 84 名)

① 介護部門

令和4年度も新型コロナウイルス感染症から、利用者の生活を守ることが使命となった。7月から8月にかけてクラスターが発生し、利用者、職員とも療養を余儀なくされたが重症化することなく療養期間を終了することができた。今回のことを教訓に以後は感染症のまん延を防ぐことができたかと思う。今後はコロナ禍の中で縮小した行事や、面会、職員の教育や研修の場を少しずつ以前の姿に戻していきたい。

11月から3月にかけて大規模な改修を行った。新しくなった施設で気持ちも新たに利用者のより良い生活を援助していきたい。また、2月に見守りシステム、移乗補助ロボット、インカムの導入を行った。利用者の安全を守りながら、職員の業務負担の軽減を目指している。本格的な稼働について皆で協力して進めていきたい。

■ 新型コロナウイルス感染症について

今年の夏のクラスターは利用者、家族に多大な心配をかけた。また入所の受け入れを制限せざるを得なくなるなど影響は大きかった。夏以降はコロナウイルスの発生を防げたことから職員の予防の意識は高くなったかと思う。感染症の脅威はまだまだ続くため、今後も常に対策を講じていきたい。

■ 大規模改修について

大規模改修は11月から3月末にかけて行った。外壁の塗装や修繕、施設内の壁の塗り替え、床の貼り換え、ろ過ポンプの入れ替え、ボイラー、キュービクル、エレベーターの部品交換などを行った。また全館LEDへの交換、ネット環境の構築を行った。工事中は居室の移動や足場の設置など利用者には負担を強いることとなったが、協力を頂き無事に工事を終えることができた。コロナ禍の中での工事であったため、職員も気を付けてながらの工事となったが11月以降、コロナウイルスやインフルエンザがまん延することなかった。綺麗になった施設で、利用者のより良い生活を今後も援助していきたい。

■ 『IT機器の導入・介護職員の負担軽減、業務の効率化を図りながら、利用者の安全を守る』について

2月より見守りシステム、移乗補助ロボット、インカムの導入を行った。本格的な稼働はこれからであるが、利用者の安全を守るため効果的に使用していきたい。

■ 『地域の防災拠点としての役割を果たせるよう大規模災害の対策を講じる』について

コロナ禍の中で地域の方との防災訓練はできなかったが、災害対策については喫緊の課題である。コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域の方とも連携を続けたい。

■ 『人材育成・職場環境を整える』について

今年度はコロナウイルス感染症の対策に追われ、会議や研修など、集合しての開催が難しかった。そのため面談などを通して職員の悩みや希望についてこまめに聞いてきた。退職者が数名いたのは残念であるが、今後も職場環境を整え人材育成に努めていきたい。

在園年数（R5. 3. 31 現在）

	1 年未満	1 年～ 3 年未	3 年～ 5 年未	5 年～ 7 年未	7 年～ 10 年未	10 年以上	計
男 性	6 名	5 名	2 名	0 名	0 名	0 名	13 名
女 性	20 名	15 名	23 名	3 名	5 名	2 名	68 名
合 計	26 名	20 名	25 名	3 名	5 名	2 名	81 名

利用者年齢構成（R5. 3. 31 現在）

区分	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男 性	0 名	1 名	1 名	3 名	2 名	3 名	3 名	0 名	13 名
女 性	0 名	1 名	6 名	5 名	20 名	25 名	8 名	3 名	68 名
合 計	0 名	2 名	7 名	8 名	22 名	28 名	11 名	3 名	81 名

最低・最高年齢（R5. 3. 31 現在）

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	72 歳	97 歳	86.7 歳
女性	70 歳	106 歳	89.4 歳

入退園の状況（年間）

	性別	年間合計
新規利用者数	男性	6 人
	女性	20 人
退去者数	男性	4 人
	女性	20 人

利用者介護度別延べ人数 (従来型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R4 年度	0	0	6,263	8,658	3,788	18,709	3.90
R3 年度	0	0	4,677	8,903	5,316	18,896	4.28

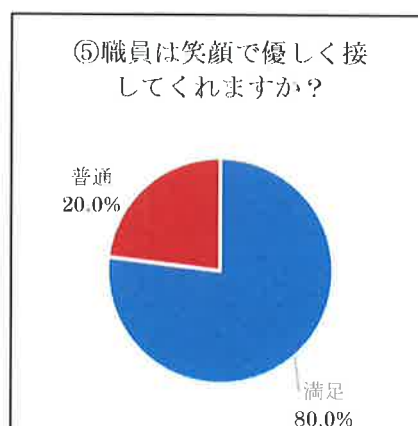
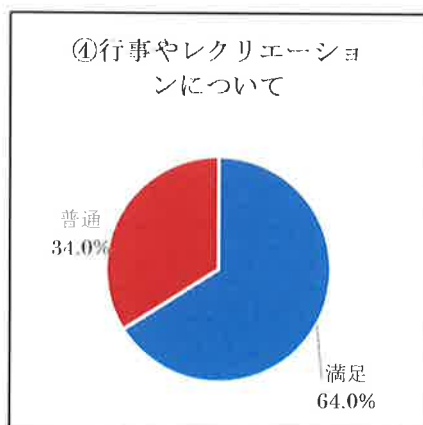
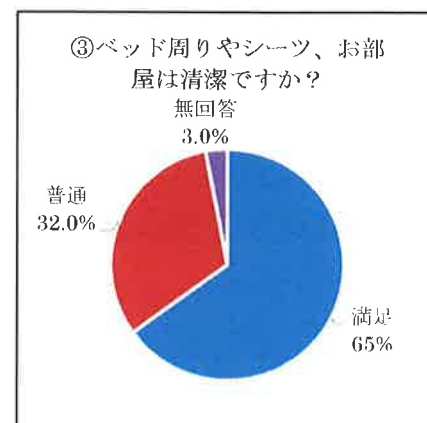
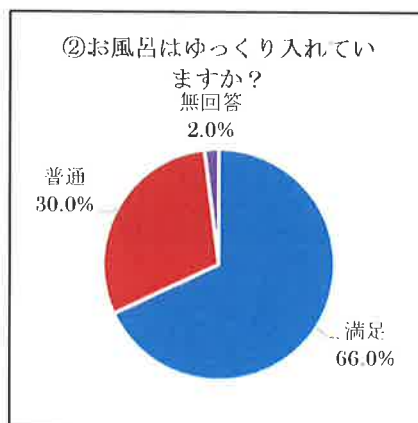
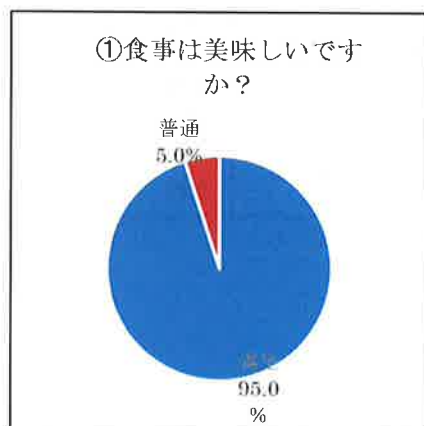
(ユニット型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R4 年度	0	0	5,147	3,848	1,066	10,061	3.0
R3 年度	0	0	4,803	4,047	1,775	10,625	3.23

◇ 特養 満足度調査 (令和 5 年 3 月実施)

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

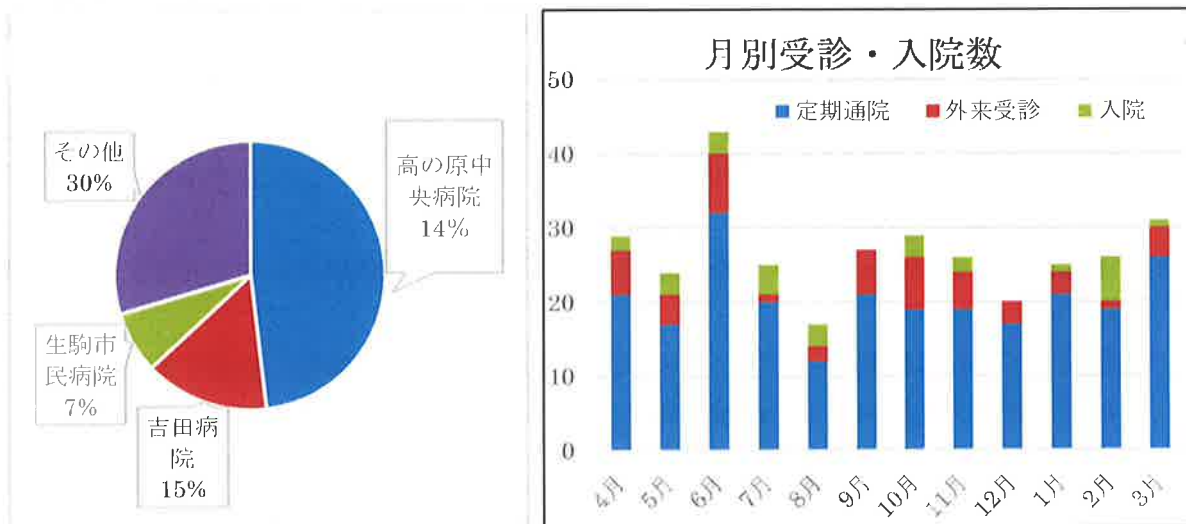
※下記 5 項目について、1. 満足 2. 普通 3. 不満 4. 無回答 の 4 段階評価にて回答してもらった。



② 医療・看護部門

■ 利用者の健康管理・異常の早期発見について

令和4年4月より常勤医師の配置により、利用者の体調不良時に早期に対応できるようになった。しかし、高齢・基礎疾患の悪化等から、園で健康的に生活できる期間は限られおり、また専門医への受診が欠かせない利用者も多く、通院や入院は大幅に減ることはなかった。



■ 感染症の対策について

7月から8月にかけての新型コロナウイルス感染症第7波では、園内で大規模クラスターが発生し、利用者30人、職員19人、計49人の陽性者が出た。一度に職員が自宅待機となり、瞬く間に人員不足に陥り、連日、感染対策について実施、情報の共有・報告を行ったが感染拡大を食い止めるまでには至らなかった。クラスター収束後、職員への聞き取りやアンケートを実施し、クラスター発生の原因と反省、改善案について話し合い、職員の心身の状態を確認し、次の波に備えた。

ワクチン接種については、希望者には5回目まで実施している。

■ 看取り介護の提供について

令和4年度は14人の方を園内で看取りを行った。病院では最期の時も面会できないことが多い中、園では感染対策を実施しながら利用者と家族と対面できる環境作りに努めた。

■ 褥瘡発生予防の体制について

軽微な褥瘡はあったものの、短期間で治癒している。施設内での研修の実施はなかった。

■ 介護職員との連携による医療的ケアの実施について

施設内の研修実施はなく、外部研修もコロナ禍により実施されていない。令和5年度より再開の動きもあり、吸痰や経管栄養の管理の研修を受けていない職員は受けられるように働きかけていく。

■ 人材育成について

6月に老年看護学実習のための看護学生を3週間受け入れた。高齢者の身体や精神の特徴について学び、生活を知ることができた。また、介護士や機能訓練士との関わりを知ることにより、多職種連携についても学びを深めた。

③ 個別機能訓練部門

- (1) 多職種と連携し、利用者一人ひとりに合った個別機能訓練計画書を作成し、訓練を実施することで身体機能維持を図る。

コロナウイルス感染のクラスターが7月末から9月にかけて発生したことにより、この期間の訓練数が約半分弱に減った。機能訓練士は利用者に直接触れる事が多い業務で濃厚接触を回避する対応となったため、利用者が身体を動かしたり、人と話したりする機会が減ったことに繋がる。運動不足・コミュニケーション不足・知的活動による刺激不足が起き、筋力低下を背景にした運動能力低下を予防したり、認知症の進行を遅らせたりするには厳しい状況だった。また、コロナ禍で集団活動が行われず、レクリエーションや体操など集団活動への介入が出来なかった。

- (2) 環境整備・ポジショニング等を多職種と検討・共有し、利用者が安全安楽に生活できるようにする。

検討することは出来ていたが、共有する（そのフロアの全職員に浸透する）ことが出来ておらず、日々の生活の中での環境の維持やポジショニングの臨機応変さに課題は残った。

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計 (人)
	従来型	ユニット型	計	従来型	ユニット型	計	
令和4年度	1673	1111	2784	433	428	861	3645
令和3年度	1543	1322	2895	422	435	857	3330

④ 栄養管理部門

■ 栄養ケアマネジメントの実施について

今年度も多職種協働で個々の利用者の状況に対応した個別対応の食事提供に取り組み、特養利用者全員に栄養ケアマネジメントを実施できた。食事療法が必要な方には療養食の提供も行っている。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組んでいきたい。

■ 家庭的で季節感のある食事や行事食の提供について

誕生食、好み食、選択食、行事食等の実施により、日常生活に変化や楽しみのある食事の提供を行うことができた。好評であり今後も継続して行きたい。新型コロナウイルス感染症の流行後はおやつレクリエーションを中止していたが、5月以降は感染症対策を行い再開することができ大変喜んで頂けた。

■ 食事内容の向上について

喫食状況を見たり、利用者や職員と会話をする中で嗜好や嚥下状態等を把握し、献立や調理、盛付等、食事内容に反映できるよう取り組んできた。

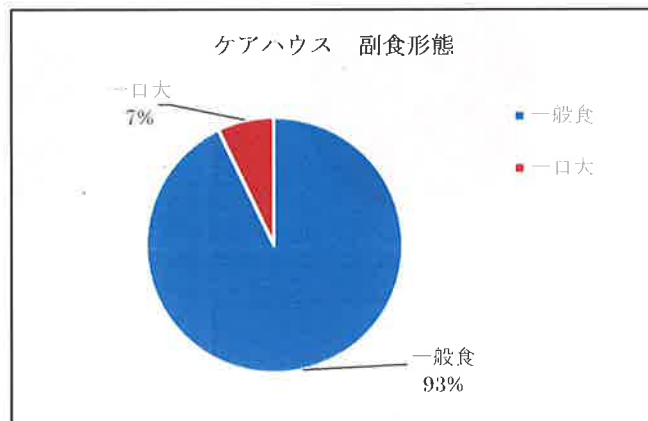
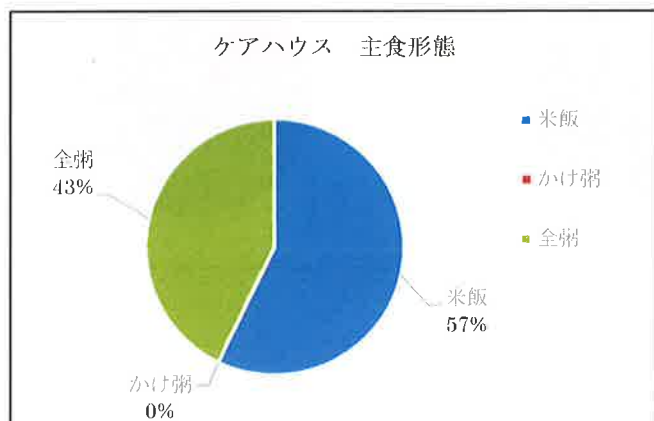
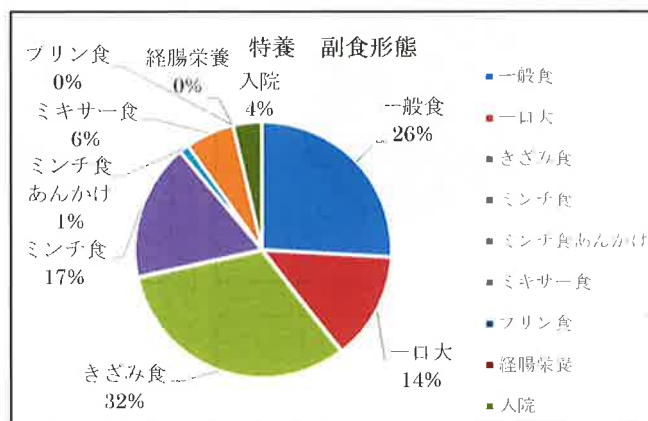
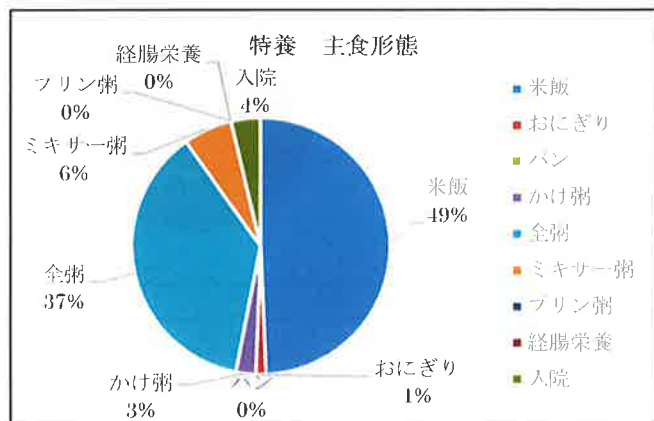
■ 食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供について

大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。食中毒予防の施設内研修を、コロナ禍であり書面研修で行った。感染症対策と同時に食中毒予防についても施設全体で取り組みを行うことができた。

■ 非常災害時の備蓄について

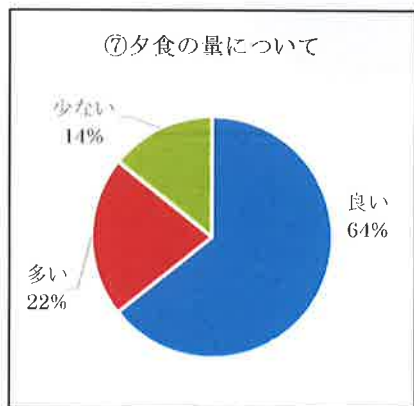
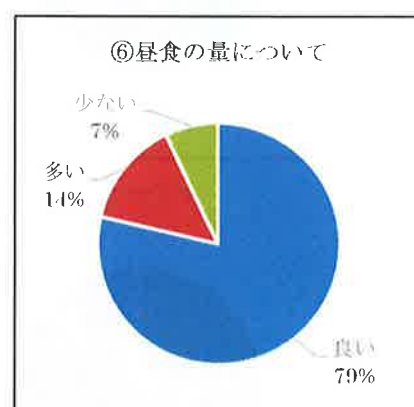
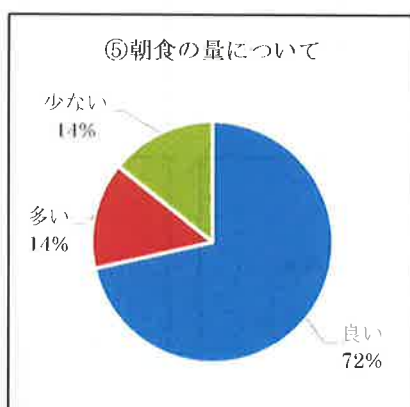
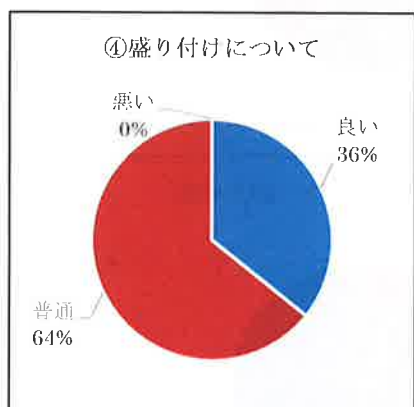
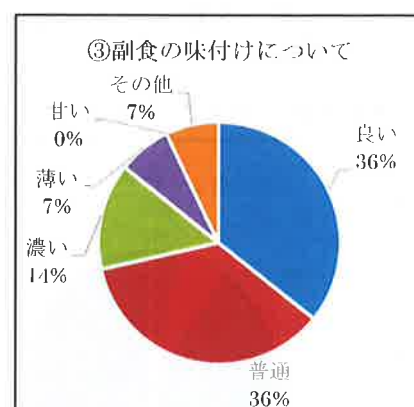
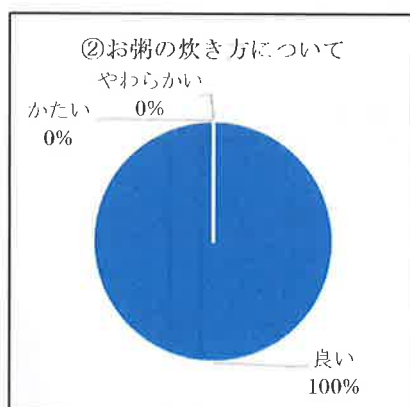
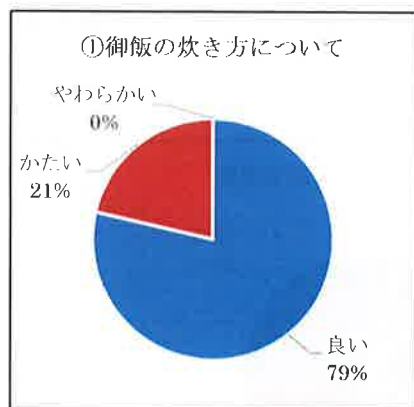
非常食を使い捨て容器と共に利用者3日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。又、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

食事形態（令和5年3月31日夕食現在）



◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果

令和 5 年 2 月実施 回答率 100%



⑧今後希望される料理

- ・刺身 ・天ぷら ・茶碗蒸し ・シチュー
- ・冷麺 ・そうめん ・焼きそば ・中華料理
- ・お鍋 ・やわらかい肉 ・煮物 ・豆類
- ・サラダ ・漬物 ・ヨーグルト

⑨食事についての満足度を 100 点満点で評価

平均 86.1 点

⑩その他、食事に関する御意見、御希望（抜粋）

- ・食材を含め何でも値上げの現在、本当に御苦労だと感謝して居ります。その中でも旬の物を頂けるのは嬉しいです。
- ・朝食に御飯を入れて下さい。パン食はトーストをお願いします。
- ・歯の治療中の為、やわらかめの物が食べやすいです。
- ・老いて歯茎が弱くなり口内炎が治らないのでやわらかい物を。いつもありがとうございます。
- ・食べやすく、色とりどりの器に盛られた美味しい御料理が楽しみです。そして季節感を感じさせて頂ける数々の御配慮に感謝申し上げます。先日のお鍋を頂きながら亡き母を思い出していました。ありがとうございました。

○ボランティア部門

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の対応のため、ボランティア活動は中止せざるを得なかった。移動スーパーや毎週のおやつ販売など、利用者の楽しみとなる活動は行った。今年度は感染症の状況を見ながらボランティアの受け入れを行っていききたい。

(イ) ならやま園ショートステイサービス (定員16名)

令和4年度においても引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行(クラスター発生)に伴い、ショートステイの受け入れを一時中断せざるを得ない状況が多くみられた。

令和5年においても、各専門職と連携の元、感染対策の実施、情報の共有を行うことで、安全にサービスをご利用いただけるように努めていきたい。

① 職員の介護の資質、サービスの質の向上を目指す。

利用者の重度高齢化に伴い、介護職員に求められるスキル(専門性)が多様化、複雑化していく中、特養併設であることの専門性を生かし、安心して利用していただける環境、サービスを提供していくことを心がけた。引き続き利用者個々のニーズに柔軟に対応できるスキルアップを目指していきたい。

② 利用者、家族、関係機関との連携を密に図り、個々のニーズを把握することで利用者の満足度の向上に努める。

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症が拡大していく中、施設内においても積極的なボランティア活動や行事、散歩や喫茶なども開催できず、利用者には不便、迷惑をかけた。そんな中でも「密を避けつつ」明るく前向きに楽しめる余暇の提供を今後も考えていきたい。また、利用者、家族、関係機関とのこまめな関わり、コミュニケーションを大切にするすることで、信頼関係の構築やサービスの質の向上を引き続き図っていききたい。

③ 地域の各事業所と連携し、新規利用者の受け入れを行うと同時に、既存利用者の安定した利用を目指す。

空きベッドを積極的に利用し、各部署と連携を取りながら緊急の受け入れにも対応してきた。独居の方や高齢者夫婦、家族の介護負担軽減など、在宅での生活が困難となるケースも多く、各事業所や家族とも連携をとり、出来る限り受け入れできる体制を整えた。引き続き、居宅介護支援事業所などへの積極的な営業活動を進めながら、新規利用者の獲得にも努めていきたい。

④ コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、利用者の命を守ることを最優先に、各事業所(デイサービス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所や医務室)との情報共有、連携を強化するとともに、個室の確保やショートステイ受け入れ継続の判断など柔軟に対応していく。

家族や各事業所、関係各機関とこまめに連携をとり、利用者が安心して利用できる生活空間の提供に努めてきた。引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大も懸念されるため、施設内外の各事業所や行政機関と連携、情報共有に努めると同時に、フロア内の密の回避など感染症の予防に努めていきたい。

	延利用日数	稼働率	延利用数	介護度別利用日数（日）							
				区変中	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R4 年度	3756 日	64.5%	309 人	123	0	5	2	281	2015	826	504
R3 年度	3699 日	63.3%	318 人	-	0	22	15	672	1307	1222	461
増減	+57 日	+1.2%	-9 人	-	±0	-17	-13	-391	+708	-396	+43

(ウ)ならやま園デイサービスセンター（定員 39 名）

- ① 利用者の状態把握に努め、情報の共有・伝達を行い、家族や他のサービス機関と連携を図り利用者満足に繋げる。

業務の簡素化・IT 化や毎日の朝礼・終礼により、情報の共有がしやすくなったため、より家族や他のサービス機関と連携が図りやすくなった。以前より利用者や家族の要望も把握しやすくなっており、利用者満足に繋がった。

- ② 忘れ物等のミスや事故を最小限に抑え、万が一起こった場合は迅速な対応に努める。

昨年と同様に転倒事故はあったが大きな事故には繋がっておらず、迅速な対応と十分な説明に努めた。

- ③ 朝礼・終礼を毎日行い、職員同士でこまめな情報共有やサービスの統一を図り、サービスの質向上を目指す。

毎日の朝礼・終礼で各自が気になっている事や注意事項、その日あった事や業務の提案等を共有できサービスの統一化が図れた。内容によっては対応策なども講じており、日々サービスの質の向上を目指した。

- ④ 人材確保や育成のため職場環境を整える。

介護ソフト「ほのぼの」やタブレットの導入、業務の改善・見直しを行い、徐々に職場環境が整ってきた。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策を行い、安心・安全なサービスを提供できるよう努める。

今年度は職員・利用者ともにコロナウイルスに感染してしまう方がおられデイサービスを営業停止する事もあったが、その都度説明・対策しデイサービスを安心してご利用していただけた。

要介護度別延べ利用者数								合計	営業日	平均/ 日
年度別	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	身障			
R4 年度	614	810	1817	1711	683	677	0	6312	304	20.76
R3 年度	633	962	2,371	1,566	879	496	0	6,907	308	22.45
増減	-19	-152	-554	+145	-196	+181	0	-595	-4	-1.69

(エ) ならやま園ホームヘルプステーション

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、利用者の安全を第一に考えて、従事者も感染予防に留意して支援にあたった。

① 介護サービスの充実

利用者のニーズに合った支援を行い、安心して生活が送れるように、個々に応じた支援内容を提供してきた。ご利用件数は若干増加したが、ほぼ横ばいでの件数となった。

② 登録ヘルパーの人材確保

今年度はサービス提供責任者3名と非常勤ヘルパー11名で事業を行い、入職のヘルパーはなかった。登録ヘルパーの年齢層が上がっており、新しい登録ヘルパーの人材募集は継続していく。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R4年度	6516件	1700件	8216件
R3年度	6174件	1580件	7754件
増減	+342件	+120件	+462件

(オ) ならやま園居宅介護支援事業所

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴う在宅ワークや分散勤務、利用者宅訪問の制限を行わざるを得ない状況であった。Zoomアカウントの取得により、コロナ禍でも会議や研修の実施、ケアマネジャー間の情報共有や連携等を密に行う事ができ、ケアマネジメント業務の見直しを図る年度となった。

① 地域包括支援センターとの連携と業務について

介護予防ケアマネジメントに関しては平城、北部、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、二名・若草・春日飛鳥の9包括との給付管理を伴う連携を行った。給付管理には至らなくとも必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。新たに春日飛鳥包括も増え活動圏域を広げて業務を行った。

② 居宅介護支援事業所としてのレベルアップについて

今年度はZoomを活用し、週1回の事業所内でのケアマネジャー会議を全48回開催し、情報共有や研鑽の継続に努めた。また、平城地域の他居宅介護支援事業所との勉強会を年4回（内1回は当事業所主催）行い、情報交換を行った。

③ 地域活動への参加について

地域ニーズを把握出来るように担当者を決めて継続的に地域サロンに参加している（月1回程度の定期参加が3ヶ所、年1～2回程度の不定期参加が2ヶ所）。休止している地域もあるが、現在再開している一部の地域に関しては積極的に参加している。

④ 介護ケアマネジメントと適正化について

年々、相談内容が多種多様化しており、サービス調整も複雑化している。ケアマネジ

メントを行う上で、公正かつ中立なサービスの選択、利用者の意思決定支援を心掛けて支援にあたっている。

⑤ ケアプラン作成件数と認定調査について

ケアマネジメントの質の向上の一つとして、奈良市委託事業である認定調査を行っているが、コロナ感染拡大により実施を中止せざるを得ない年度となった。

利用者延件数（ケアプラン作成）

	予防	要介護	計
R3 年度	751	1996	2747
R4 年度	723	2108	2831
増減	-28	+112	+84

認定調査受託件数（市町村委託総数）

R3 年度	12
R4 年度	6
増減	-6

(カ) ケアハウスニューライフならやま（定員 15 名）

令和 4 年度は 3 年度と同様コロナウイルス感染対策に対応した生活支援を継続した。入居者には、精神的ストレスや身体機能低下により日常生活に不安を抱かれる場面が見られた。生活相談を受ける中、入居者の個々の思いを尊重し、精神面・身体面の様子を重視しながら不安無く安心して生活して頂ける事を願い、接するように心がけた。又、昨年度と同様に移動スーパーの利用や訪問喫茶、季節の作品作り等、個々で参加できる催し物を実施することで、ほんの少しではあるが、気分転換をして頂けたと思っている。今後もケアハウスでの生活に不安なく過ごして頂ける様、個々との話し合いの場を大切に、家族様、介護支援専を門員との連携を取り支援を行っていききたいと思う。

介護度（令和 5.3.31 現在）

	自立	要支援	介護 1	介護 2	介護 3～5	合計
男 性	0 名	0 名	0 名	1 名	1 名	2 名
女 性	0 名	4 名	2 名	6 名	1 名	13 名
小 計	0 名	4 名	2 名	7 名	2 名	15 名

(キ) 委員会活動

① 研修委員会

今年度もコロナ禍の中での集合研修は難しく主に書面での研修となった。7 月にクラスターが発生した際にはゾーニングや感染症予防の研修を積極的に行った。感染症の研修以外は各フロアで書面研修とした。振り返りのアンケートを実施し、またアンケートをフィードバックすることで習熟度の確認を行っている。感染症の状況が落ち着けば、集合研修を行い皆で学べる機会を持っていきたいと思う。

② 感染症委員会

研修委員会と協力し、感染症の研修、訓練を行った。7 月にクラスターが発生したが、利用者や職員が重症化することなく、また以後は感染者が出てもまん延することは防ぐこ

とができた。コロナウイルスが落ち着いても、違う感染症の脅威があるため、常に最新の情報や対処方法を職員と共有していきたい。

③ 危機管理委員会

コロナ禍の中で年の2回の避難訓練、地震・風水害・土砂災害の避難訓練を書面で行った。また作成したBCPを職員で共有を行った。安全対策担当より、振り返りが必要な事故は皆で共有を行い再発防止に努めた。今後も大きな事故が起きないように対策を検討していきたい。

令和4年度 実習生受け入れ状況

学校名	人数	期 間
青丹学園（看護実習）	6名	令和4.6.13 ～ 6.17 （5日間）
	4名	令和4.6.20 ～ 6.24 （5日間）
	4名	令和4.6.27 ～ 7.1 （5日間）
奈良県介護支援専門員実務研修	1名	令和4.4.14 ～ 4.15 （2日間）
介護労働講習 施設見学会	8名	令和4年6.15（1日）

（ク）令和4年度 出張・研修結果一覧

今年度の研修についても昨年と同様に集合研修はほぼ中止となりオンラインでの会議や研修が中心となった。オンラインでの研修も定着し、昨年より多くの職員が参加できるようになった。

☆ならやま園

出張日	人数	出張先	目 的
4月8日	3	奈良県立榛生昇陽高等学校	「介護職の魅力について」（講師派遣）
4月22日	1	オンライン	奈良県認知症介護基礎研修
5月10日	3	オンライン	特定事業補加算 無料 zoom 説明会
6月7日～10日（4日間）	1	特別養護老人ホーム 神の園	ユニットリーダー研修 （実地研修）
6月17日	1	オンライン	奈良県内高齢者施設「新型コロナ感染対策責任者」説明会
6月17日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度OJT担当者基礎研修
6月20日	1	奈良県社会福祉総合センター	介護現場における腰痛予防と対策
6月21日 7月5日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度スーパーバイザー入門講座

7月6日	1	オンライン	令和4年度奈良市特定給食施設等研修会
7月13日～1 月12日(3 回)	2	奈良県産業会館 奈良県社会福祉総合センター	介護現場のリーダー養成研修
7月22日	1	オンライン	介護施設のメリットとなる介護ロボットの導入セミナー
8月4日	1	奈良市西部会館市民ホール	安全運転管理者講習会
8月4日～12 月2日(5 回)	1	オンライン	令和4年度奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座
8月5日	1	オンライン	奈良県認知症介護基礎研修
8月9日	1	奈良県産業会館	介護職が学ぶターミナル
8月28日～10 月28日	1	認知症介護研究 研修大府セ ンター	令和4年度認知症指導者養成研修
8月31日～9 月29日(3 回)	1	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度福祉職員キャリアパス対応生涯学習 中堅職員研修
9月15・16日	1	オンライン	2022年度 ユニットケア研修
9月20日	1	奈良県産業会館	労務管理から見てくるリスク管理
9月30日	2	オンライン	介護施設における安全対策担当者養成研修
11月8日	8	オンライン	第34回奈良県老人福祉施設協議会
11月12日	3	オンライン	第16回奈良県感染管理ネットワーク研修会
11月17日	1	田原本青垣学習センター	副安全運転管理者
12月1日～2 月27日(6 回)	1	奈良県産業会館	令和4年度奈良県認知症介護実践講座
1月12日	5	オンライン	令和4年度奈良県介護保険認定調査研修
2月20日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度奈良県老人福祉施設協議会 在宅サービス研修会
令和5年2月 28日	1	近畿安全衛生技術センター	衛生管理者研修
3月4・5日	1	CIV研修センター新大阪東	リハ職・機能訓練相談員が実践するべきトレーニング評価と実技
3月9日	1	やまと郡山城小ホール	令和4年度 難病医療従事者研修会

(ケ) 特別養護老人ホーム平城園（従来型定員 70 名、ユニット型定員 40 名）

令和 4 年度は「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」「医療面の充実」をテーマに、介護の質向上に努めてきた。1 月には従来型特養にて新型コロナウイルスによるクラスターが発生したが、他のフロアへの感染拡大を防ぐことができ、感染症対策は一定の効果があつた。コロナの影響は大きく、感染症対策を講じたうえでの日常を取り戻す準備もなかなか進めていくことができなかった。令和 5 年度はアフターコロナとしてこれまでの経験を活かし、職員一丸となり外向きの活動へ視野を広げていきたい。

① 介護部門

従来型

■ 体制づくり

コロナ禍ではあつたが、感染予防を行いながら季節ごとの行事等を各フロア単位で実施し、工夫しながら利用者を楽しんだ生活を送っていただける様に取り組めた。面会も対面ではあるが感染対策を取りながら面会室で実施し、ご家族との時間を提供することが出来た。ICT 化を進め、業務の効率化も定着しつつある。職員同士がどのように工夫をすればいいのかを話し合いを行いながら新しい取り組みにも積極的に取り組めた。

■ 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり

介護職養成校の実習生を積極的に受け入れたが、採用に繋げるには至らなかった。新規採用に向けてホームページ、インターネット、見学会の実施、広告など積極的に取り組み、少しずつ雇用に繋がってきた。新規事業に向けて継続的に雇用できるように今後も取り組んでいく必要がある。一定の雇用はできたものの、退職者も多くあつた。今後も退職者を出さないような取り組みを検討していく。

■ 災害・感染症に対応できる体制づくりの強化・計画の充実

コロナ禍での感染予防の取り組みは職員一丸となり取り組んだ。しかし、利用者への感染を防ぐことはできなかった。発生時には、迅速に対応し、連携を密にとることで、感染拡大となることは防げた。今後も感染症への意識を高く持ち、発生時は多職種連携をとり対応できるように定期的な訓練を行い、感染拡大を起こさないように取り組んでいく。

ユニット型

■ 個別ケアの充実

毎月、ミーティングで個別ケア内容を振り返り、ケアプランとその時の状態、思いに合わせた対応や見直しに取り組むことができた。介護者目線での議論とならないよう、リーダー・サブリーダーが意見をまとめながら、各 CW からの提案を積極的に試行した。認知症とその方の理解、向き合い方、対応はまだまだ改善が必要であつた。また、介護技術についてはあまり進展がなく、来年度に向けて福祉機器と併せて知識と技術の習得は課題である。ご入居者、職員共に安全、安心なケアを目指したい。

■ 環境づくり

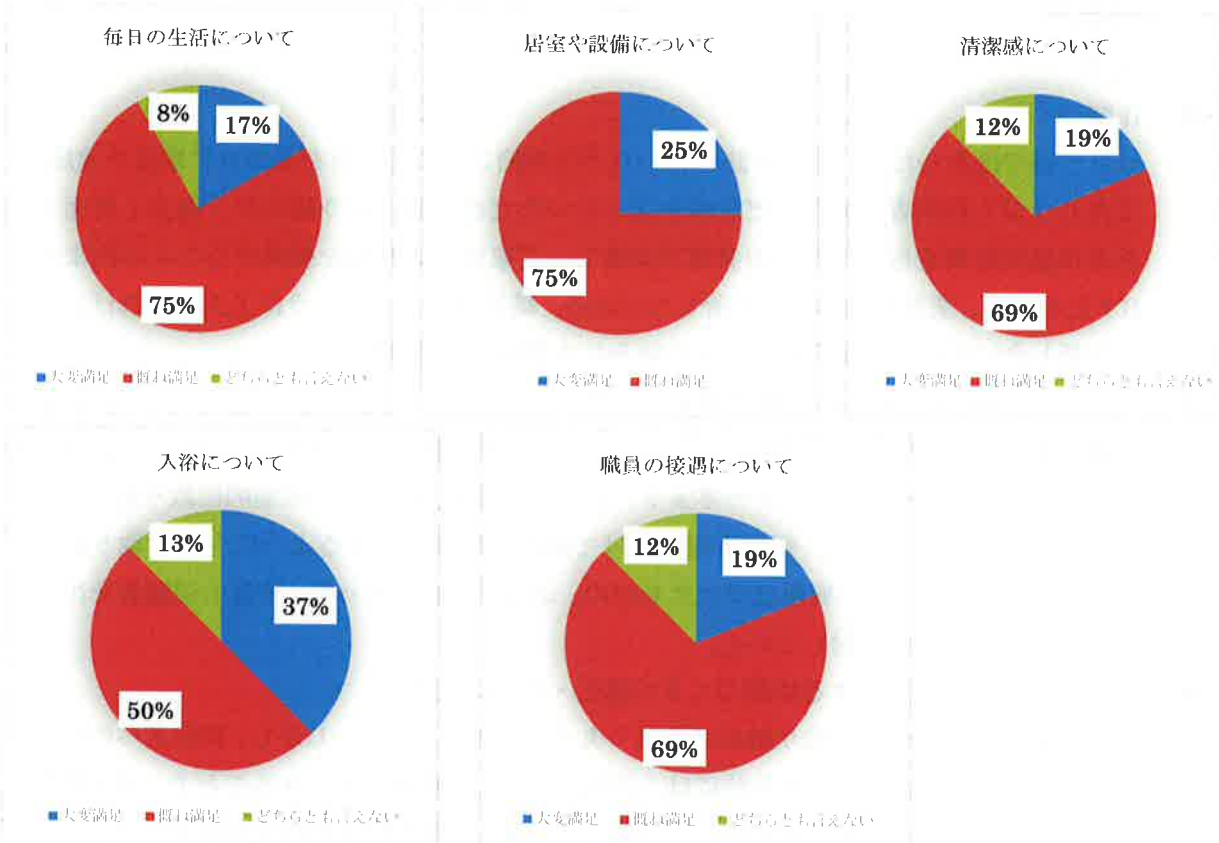
移動能力に合わせ、動線や居室環境の見直しを適時行った。安心できる居場所づくりに繋げることができた。一部、家具の購入、定期的な模様替えで、リビングのより良い環境づくりに取り組んだ。反面、新規購入は、立案するものの金額面で購入不可となったこともあり、年度計画も併せつつ、有効な活用の提案と、都度、必要なものをスピーデ

ィに購入が実現できるシステム作りが必要と考える。

◇ 特養 満足度調査 （令和5年3月実施 N=12）

調査目的：利用者の生活向上、職員の意識向上のため利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くため利用者にアンケートを実施した。

※下記5項目について、1. 大変満足 2. 概ね満足 3. どちらとも言えない 4. やや不満 5. 大いに不満の5段階評価にて回答してもらった。



アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

＜毎日の生活について＞

・外出ができない ・楽しいです ・食事席に座る時間が長い（自分のためと思うけど）

＜居室や施設の設備について＞

・気に入ってます ・収納がもう少しあれば

＜施設の清潔感＞

・きれいにしてくれています ・良いです ・洗面台の汚れがとれない

＜入浴全般について＞

・気持ちよく入っています ・椅子が固くお尻がいたい ・時間が短い

＜職員の接遇について＞

・誰にも気兼ねなく生活出来て満足です・やさしくしてくれます ・色々な人がいます

・面倒くさそうにされることがあります

・認知症の人が何度も同じことを聞くとイライラ返答している人がいます

・やさしい人とは楽しく、厳しい人の前では大人しくしています

- ・呼んでも来てくれるのに時間がかかります

② 介護サービス支援室

新型コロナウイルスの感染予防等、まずは安全、安心に生活して頂けるように支援をした。安全を最優先にする中で、面会については、利用者および家族に不自由をおかけすることもあったが、関係性を継続できるよう、感染状況に鑑みながら、WEB 面会、面会室での対面面会を交互に行った。ホームページでも園内の様子を随時公開している。

人材育成の面では、園内研修について、今年度も WEB で実施した。コロナ禍でも、専門家による WEB 研修を利用することで、研修の充実を図り、参加率も向上し、人材育成に貢献出来た。

伝達講習会については2回対面で実施をした。

ICT への取り組みについては、昨年度介護ソフト「ほのぼの」を導入し、請求業務については、昨年度内に完全移行できていた。今年度は、各種記録や必要書類の作成なども試験的にソフトを利用した。多職種連携をする中で、どこからでも記録を確認、共有することで、業務の効率化がはかれた。感染防止のため、施設見学をして頂けない日が続く電話やメールで対応したが、感染状況が落ち着いた際には、タブレットを使用し、園内の説明を行い施設の魅力を PR した。

安定稼働に対しては、園内のコロナ感染防止対応のため、1月中旬～2月中旬まで新規入所者の受け入れを中止したことや、予想を超える退園者数によりユニット型、従来型ともに前年度の稼働率を下回った。安全に新規利用者を受け入れるため、入園後は一定期間個室対応するなどの対応を行った。

①在園年数

- ・従来型

在園年数 (R5. 3. 31 現在)							単位：人
	1 年未満	1 年～ 3 年未満	3 年～ 5 年未満	5 年～ 7 年未満	7 年～ 10 年未満	10 年以上	合 計
男性	4	3	4	1	0	1	13
女性	18	16	4	4	2	2	46
合計	22	19	8	5	2	3	59
平均在所日数 ■男性 3 年 3 ヶ月 6 日 □女性 2 年 5 ヶ月 20 日							
平均 2 年 7 ヶ月 22 日 (966 日)							

・ユニット型

在園年数 (R5. 3. 31 現在)					単位：人
	1 年未満	1 年～ 3 年未満	3 年以上	合計	
男性	1	2	1	4	
女性	10	8	15	33	
合計	11	10	16	37	
平均在所日数 ■ 男性 1 年 11 ヲ月 21 日 □ 女性 2 年 3 ヲ月 20 日 <u>平均 2 年 3 ヲ月 6 日 (827 日)</u>					

②入園者年齢構成

・従来型

入所者年齢構成 (R5. 3. 31 現在)									単位：人
	70 歳未満	70 歳～ 75 歳未満	75 歳～ 80 歳未満	80 歳～ 85 歳未満	85 歳～ 90 歳未満	90 歳～ 95 歳未満	95 歳 以上	合 計	
男性	0	1	3	3	1	3	2	13	
女性	2	2	3	6	11	13	9	46	
合計	2	3	6	9	12	16	11	59	

・ユニット型

入所者年齢構成 (R5. 3. 31 現在)									単位：人
	70 歳未満	70 歳～ 75 歳未満	75 歳～ 80 歳未満	80 歳～ 85 歳未満	85 歳～ 90 歳未満	90 歳～ 95 歳未満	95 歳 以上	合 計	
男性	0	1	1	0	1	0	1	4	
女性	0	0	0	3	6	10	14	33	
合計	0	1	1	3	7	10	15	37	

・従来型

最低・最高年齢 (R5. 3. 31. 現在) 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	74	98	85.2
女性	69	102	88.1

・ユニット型

最低・最高年齢 (R5. 3. 31. 現在) 単位：歳			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	73	99	83.5
女性	80	100	92.6

利用者の状況

・従来型

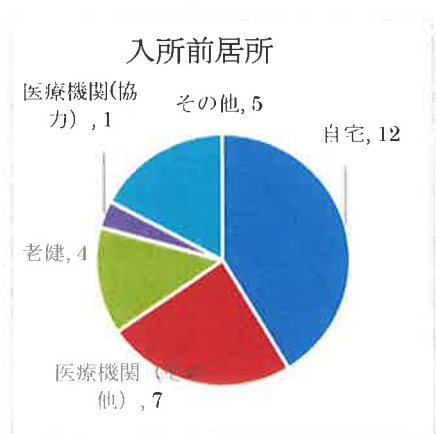
入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入居者	男性	5 名
	女性	24 名
退園者	男性	3 名
	女性	30 名

・ユニット型

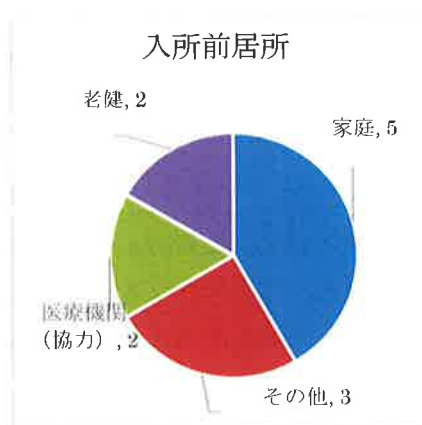
入退園の状況（年間）		
	性 別	年間合計数
新規 入居者	男性	1 名
	女性	11 名
退園者	男性	5 名
	女性	7 名

入園前の状況（単位：人）

・従来型

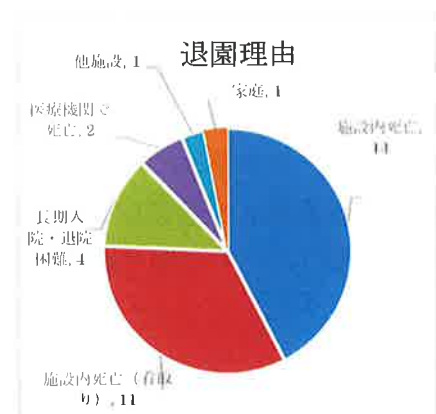


・ユニット型

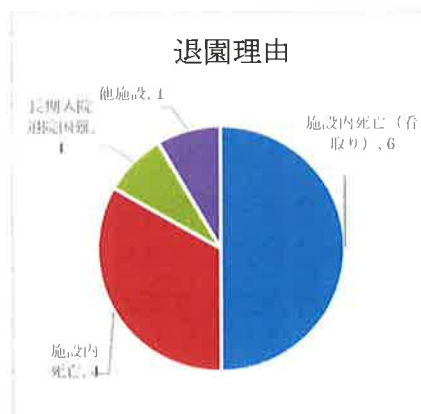


退園理由（単位：人）

・従来型



・ユニット型



① 介護度別延べ人数

・従来型

入園者介護度別延べ人数（R5年3月31日現在）							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R4 年度	0	0	7396	8157	2946	18517	3.76
R3 年度	0	0	9898	8973	4581	23452	3.77

・ユニット型

入園者介護度別延べ人数（R5 年 3 月 31 日現在）							単位：人
年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R4 年度	0	0	5119	5768	2665	13552	3.86
R3 年度	0	0	6363	4320	2873	13556	3.89

③ 看護部門

目標：利用者の人権を尊重し「安全・安心」「納得・信頼」のある看護を提供する。

■ 利用者の健康管理と異常の早期発見

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、日々の状態観察を行い利用者の変化を速やかに医師に報告、指示のもと健康保持に努めた。基礎疾患を有する利用者が多く、一人が複数の診療科を受診するケースがある。医療機関への受診は（定期通院・検診レントゲンを含む）357 件（前年度 454 件）、入院した利用者は 26 名（前年度 16 名）だった。（図 1 と図 2）

■ 感染症の対策

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に努め、取り組んできたが、令和 5 年 1 月、従来型フロアにて、利用者、職員のクラスターが発生した。発生後、感染拡大防止に向け、職員間での情報共有と、協力体制により、感染対策を進め、2 月上旬には、感染状況は、終息した。引き続き、感染症対策として、手洗い、手指消毒、マスク、ゴーグルの着用の徹底と、日頃から利用者の健康状態や、変化の有無等に留意し、感染防止に向けた取組を職員と連携し、推進した。地域における発生状況等を踏まえ、家族の面会については、WEB 面会より、面談室での面会に移行した。

■ 利用者・家族に納得いただける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた利用者は 31 名（前年度 30 名）、うち看取り介護を受けられたのは 14 名だった（前年度 22 名）。新型コロナウイルス感染症対策により、面会の制限やWEB 面会に変更する等の対応をとる中、看取り期の利用者とその家族に対しては、十分な感染拡大防止対策を実施したうえで、家族との時間を静養室にて過ごしていただくことができた。偲びのカンファレンスは、職員間で故人を偲び、ケアの振り返りを行い今後のケア向上に繋がるよう努めた。

■ 褥瘡発生予防の体制

3 か月毎の褥瘡ケア計画書の作成および評価を行い、多職種協働により褥瘡の発生予防に努めたが、今年度は 2 名、褥瘡の発生があった。褥瘡予防に対してWEB 研修を行い職員の認識を深めるとともに、発生時は早期治癒に向けて診療所と連携して対応した。

■ 医療的ケア（喀痰吸引・胃ろう）の研修

本年度も感染拡大防止の為、奈良県における喀痰吸引等の基本研修が実施されず受講できない状況であったが、採用時に基本研修を終了していた職員 1 名に対し園内での実地研修を終了し、認定特定行為業務者認定証を取得した。医療的ケア推進対策委員会を定期開催し、医療と介護で連携を図り安全に実施することができた。

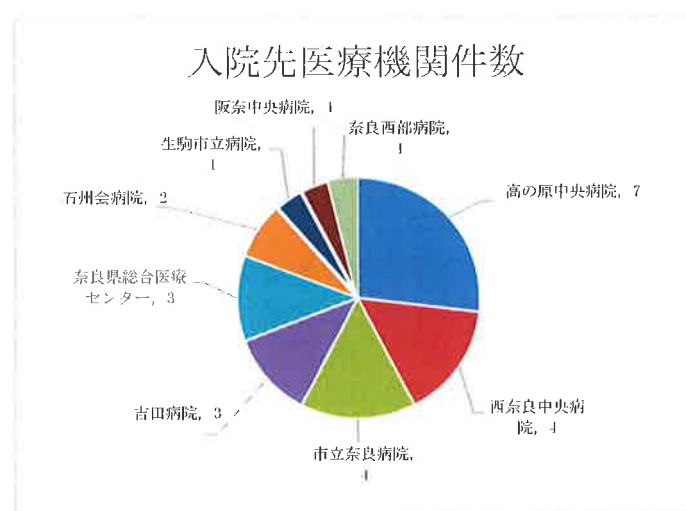
図1 <利用者の受診・入院状況>

(単位：人)



図2 <入院先医療機関件数>

(単位：人)



④ 個別機能訓練部門

利用者一人一人の身体機能評価を行い、部署内で情報を共有し訓練の立案・手技・手法及び訓練内容の確認を実施した。しかし、機能訓練指導員のみの介入では時間・回数が限られているため、利用者によっては機能低下が認められた。この事からも日常的に介入する生活リハビリの重要性が挙げられる。機能訓練時だけでなく、日々のケアを担う介護職員による関節運動及びポジショニングを行う必要があり、機能訓練指導員の技術力だけではなく、介護職員の技術力向上も必要であった。現行のエアマットの効果と利用者の褥瘡等の創傷状況から、同等のコストでより褥瘡予防やポジショニング効果の高いものへの見直し・選定を行い変更した。感染症対策としては基本的な感染症対策を行い、機能訓練指導員一人につき1日1フロア制としていたが、その時の状況次第で柔軟に対応した。

単位：人

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R4 年度	2117	828	2945	509	189	698	3643
R3 年度	2171	810	2981	860	527	1387	4368

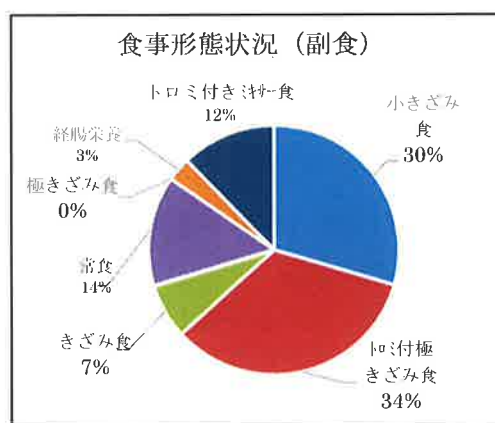
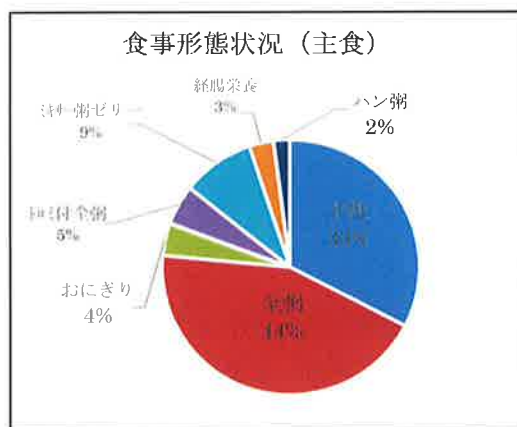
⑤ 栄養管理部門

- 利用者に喜んで食べて頂けるように旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。
- 利用者の嚥下状態に合わせ、どの食形態でも見た目のいろどりと、食べやすさを考え、下処理や調理方法を工夫してより満足のできる食事の提供できた。
- 給食会議等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努めることはできた。ただ、フロアごとのランチパーティーやおやつパーティー等の楽しんでもいただくサービスは、新型コロナウイルス感染症防止の為、殆ど実施することができなかった。
- 栄養ケアマネジメントの実施は、介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に効果的にできた。ただ、療養食加算については、対象者が少なく、変わりがなかった。
- 災害用の備蓄については、災害に備えて、3日分（9食分）の備蓄内容の見直し、備蓄食品の保管場所と使用方法を給食会議で確認し、多職種での情報共有を実施できた。
- 配食サービスについては、高齢者に適した食材、栄養バランス、嗜好に合わせ、衛生面にも注意して作り、提供できた。
- デイサービスについては、季節感のある食事や行事食を提供できた。
- 事業内保育園については、子どもの年齢に合わせた食事の提供と安全でおいしい食事の提供ができた。

○療養食加算実施状況令和5年3月末時点人数(実人数4人 4.1%)

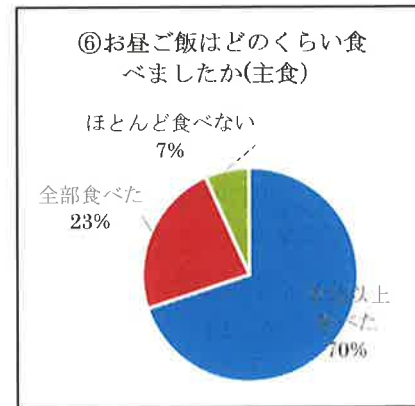
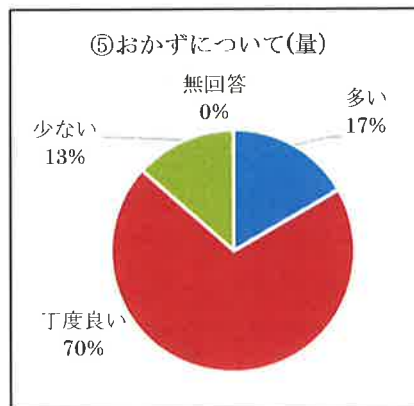
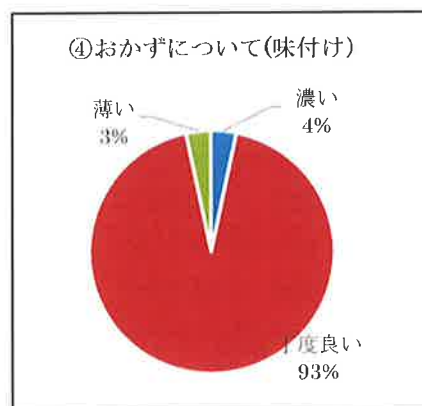
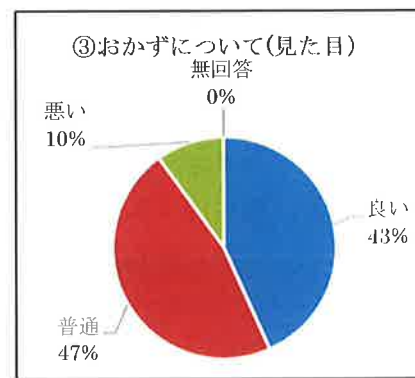
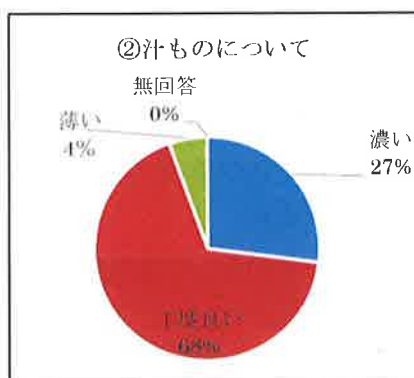
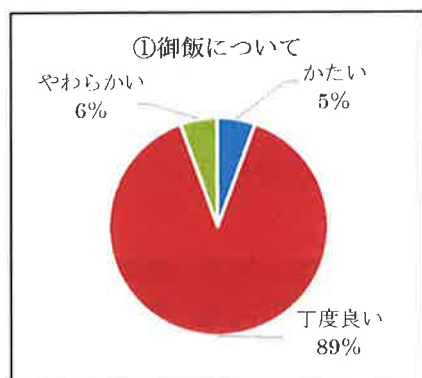
療 養 食 名	人 数	療 養 食 名	人 数
糖尿病食	4 人	貧血食	0 人
脂質異常食	0 人	心臓病食	0 人

<R5 年 3 月 食事形態状況(個別対応) >



◇特養満足度調査(嗜好調査) 結果

令和5年3月実施



*お食事についての希望(抜粋)

- ・あつあつのお好み焼きが食べたい
- ・国産の牛肉がいい(食べたい)
- ・やわらかくてふわふわしたものがいいです

⑥ボランティア部門

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアの受け入れや外部からの慰問は再開することができなかった。職員によるピアノ演奏や飲み物の提供、傾聴の時間を設ける等の活動を工夫しながら実施し、利用者に喜んでいただくことができた。引き続き利用者に楽しんでいた活動を検討し実施していく。

(コ)奈良デイサービスセンター（定員 30 名）

① 感染症対応の徹底

消毒や換気・ソーシャルディスタンス等出来る範囲での感染症対応を行った。10月に濃厚接触者の特定が出来なかった為1日の休業、また12月には職員・利用者合わせて16名の陽性者が出た事に伴い5日間休業し、その際は利用者に不便をかけた。コロナウイルスが5類となり、平常時からの感染症対策は継続しつつ安全で安心して利用頂けるサービスを提供していく。

② デイサービスの規模拡大

利用者数についてはコロナウイルスを気にされ自粛される方も多く、新規の利用者が伸び悩んだ。今後として利用者ニーズを取り入れ都度対応していく事で新規利用者の獲得と現利用者の増回を勧めていきたい。土曜日については、職員配置が調整出来ず営業ができていないが、職員配置が出来ればすぐに開所出来るよう業務改善を行っている。

③ 職員のスキルアップと業務の簡素化

介助の際利用者・職員共に負担が少ない介助方法を都度作業療法士と相談し職員へ伝達している。記録ソフトの導入に伴いマニュアルを作成し書類業務時間削減に繋がった。同法人のならやま園デイサービスとも業務連携を行っている。

延利用人数

年度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	営業日数	平均/日
R4 年度	693	1490	2094	1027	503	213	6020	251	23.98
R3 年度	732	1130	1998	594	415	78	4947	241	20.52

※令和4年4月～令和5年3月迄

(サ)平城園ホームヘルプステーション

① 訪問介護員の高齢化に伴い、新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。

登録ヘルパーの新規採用は、令和4年6月に1名のみで、令和5年3月に1名が退職した為、現在は登録ヘルパー15名体制となっている。応募者もなく、サービス提供体制やサービスの質の維持の為、人材確保が最重要課題となっている。今後は初任者研修や地域の介護教室の実施も視野に入れ採用に繋げていきたい。

- ② 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を深め、ケアプランに基づいた質の高い介護サービスを提供し、個別の状況に応じたサービスを提供する。
各事業所と連携し、生活支援、身体介護ともに利用者の個別のニーズに対応できた。書面ではあったが毎月登録ヘルパー研修実施し、技術と知識の向上に努めた。
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策を強化・徹底し、ご利用者様に安心してサービスを受けて頂く。
ご利用者様へのマスク着用をお願い、感染拡大時の時差出勤やフル P P Eでの支援を実施。大きな感染拡大はなかった。今後は感染に注意しながら、対面でのヘルパー会議等を再開する。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R4 年度	6768 件	2062 件	8830 件
R3 年度	6262 件	2248 件	8510 件
増減	+506 件	-186 件	+320 件

※障害者総合支援事業 0 件

(シ)平城園ショートステイサービス（定員 10 名）

本年度、従来型（10 床）とユニット型（空床利用）でショートステイの受け入れを行った。感染症予防の対策等を徹底し、まずは安心してご利用頂けるように受け入れ体制を整えた。利用居室については、原則個室対応とし、感染症予防の観点から、安心して利用できると好評を得た。園内のコロナ感染防止の対策で 1 月中旬～2 月中旬は受け入れを中止した。安全確保のため、受け入れ制限をフロアごとに行うこともあり、ご利用者、家族、担当ケアマネジャーには引き続き迷惑をおかけする 1 年となった。一方で、コロナの感染の不安から、自宅へ戻ることを不安に思っておられる方については、居室を確保し、一定期間利用して頂く等の配慮をした。稼働率としては、何とか昨年を上回ることができた。受け入れ時に想定していなかった事象が起こった場合などには、受け入れフロアや医務室などの関係各所と連携しながら対応し、新たな仕組みづくりへ繋げた。利用者、家族、ケアマネジャーから頂いた意見は常に現場にフィードバックし、より満足度の高いサービス提供を目指した。

	延利用 日数	利用者 数	介護度別利用日数						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R4 年 度	4359	263	0	0	127	752	1824	1079	559
R3 年 度	4350	230	10	52	67	512	2041	1482	186

(ス) 平城園在宅介護支援センター

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波の影響が少なからず出た。サービス提供事業所の急遽のサービス停止により、ケアマネジャーも緊急で対応しなければならないケースが増え忙殺された。令和5年の1月からは毎週2回の抗原検査を実施し、ケアマネジャーの感染の有無を報告した。幸い1名の陽性者も出さずに年度末を迎えることができたのは、ケアマネジャー各自の感染対策への留意に加えて、外部への認定調査の受託を制限し、毎月の訪問も最小限に抑えた事が大きな要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症対策も3年目となり、『ウィズ・コロナ』にも少しずつ慣れてきて、油断をしないようにしながら、ケアマネジャー各自が新規ケース受託に努力をし、令和3年度の収益に対して令和4年度は増益となった。

① 介護支援専門員の専門性の向上

- 医療機関との連携の強化⇒医療連携アプリ（MC S）の活用により看取りケースにおける医療関係者とのタイムリーな連絡体制を確保。また入院時に速やかに医療機関への情報提供をおこなう事で医療連携加算を積極的に算定した。
- 地域包括支援センターからの困難ケースの受託体制の維持⇒4年度は2件受託した。
- 外部の研修および会議への積極的参加⇒毎月第4火曜日に開催される平城地域自立支援型ミーティングをはじめ年間の研修計画に沿って積極的に参加した。
- 介護支援専門員実務者研修受け入れについて⇒令和5年3月27日から同29日までの3日間、1名を受け入れた。
- 圏域内の他の居宅介護支援事業所との勉強会について⇒5月、12月、令和5年3月の計3回。うち5月は当事業所主催。
- 毎週火曜日の部署内定例会議について⇒月平均4回開催できた事で情報の共有がおこなえた。
- 公正中立なサービス選択について⇒年に2回、6カ月毎に自法人のサービス利用率を集計し、ご利用者に説明を行った。
- 24時間連絡可能な体制の維持、確保について⇒ケアマネージャー全員が社用のスマホを携帯し休日と夜間にも対応をおこなった。

② 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みへの参画

地域包括ケアシステムにおける多職種連携については、毎月第4火曜日の13時より、WEB形式で開催される平城地域包括支援センター主催の自立支援型ケア会議に参加。また登美ヶ丘地域包括支援センターが主催する同会議にも事例を提供して、令和4年度は2回参画をおこなっている。

・利用者延件数(ケアプラン作成) (単位:件)

	予防	介護	計
R4年度	732	1436	2168
R3年度	704	1377	2081
増減	28	59	87

(セ) ヴィラ秋篠

年間を通じて 99.7%の入居率であった。ご家族との連絡調整がうまくいかなかったことが 1 つの要因でもあるため、それをふまえ、スムーズな入れ替えが実施できるよう、対応を考えていきたい。

また、より自立度が高い入居者との契約を重ねることができたため、新規で法人内のサービスへ繋ぐきっかけも多く作ることができた。

コロナ禍での経験を活かした業務の効率化や改善への取り組みについては、これまでに管理者が担っていた業務を分散させ、後任を育てていくことにも着手しBCP的な視点も踏まえどんな状況に陥っても、現場で職員やご入居者が慌てることなく、指示や連絡が行えるような体制づくりに努めた。

また、住宅部としてケアハウスとの情報交換やサービス体系の統一を図ることを進めたいとの思いから下半期以降で積極的に確認作業を行った。新年度に当たってはより積極的な部内でのやり取りを進めたい。

・月別入居契約数（毎月 1 日時点）

月	R4. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5. 1	2	3	平均
契約戸	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
契約率	97	100	100	100	100	100	100	100	100	100	98.9	100	99.7

・年度内退去者 7 件 7 名（男性 1 名 女性 6 名）

退去先内訳 ・法人内特養 1 名 ・長期入院 3 名 ・自宅 1 名
・他法人サ高住 1 名 ・居室変更 1 名

・年度内契約者 8 件 8 名（男性 1 名 女性 7 名）

契約動機内訳 ・法人内配食紹介 1 名 ・他法人居宅紹介名 1 名 ・居室変更 1 名
・知人の紹介、口コミ 3 名 ・インターネット 2 名

・契約者数内訳：人（性別）

性 別	契約数
男性	14
女性	34
合計	48

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

年代	65 歳未満	65 歳以上 75 歳未満	75 歳以上 85 歳未満	85 歳以上	合計
合計	0	1	8	39	48

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：支援 2

介護度	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
合計	8	5	4	16	9	5	1	0	48

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅…27 名 ・訪問介護…24 名 ・訪問リハ…3 名 ・通所介護…8 名

・食事 契約者数…45 名 自炊者…3 名

・食事提供数

（単位：食）

	R4. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5. 1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	1,014	1,047	1,000	980	992	977	986	934	939	918	792	925	11,504	959	32
昼食	897	974	926	948	974	926	922	848	872	850	722	835	10,694	891	29
夕食	1,238	1,312	1,271	1,253	1,314	1,270	1,261	1,185	1,142	1,126	985	1,155	14,512	1,209	40
月合計	3,149	3,333	3,197	3,181	3,280	3,173	3,169	2,967	2,953	2,894	2,499	2,915	36,710	3,059	101

・生活相談件数

	R4. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5. 1	2	3	合計	月平均
件数	277	308	272	275	294	285	256	246	293	263	221	261	3,251	271

・健康相談件数

	R4. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5. 1	2	3	合計	月平均
件数	2	2	4	4	0	5	1	3	4	0	0	0	25	2.1

・有償サービス利用件数

	R4. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5. 1	2	3	合計	月平均
件数	49	53	63	63	58	58	61	150	270	286	36	48	1,195	99.6

・入居活動件数

	R4.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5.1	2	3	合計	月平均
営業	3	3	4	4	5	6	5	7	6	7	6	6	62	5.2
問合せ	6	7	4	4	6	7	7	8	7	6	5	7	74	6.2
見学	4	5	4	4	3	4	4	3	3	5	5	5	49	4.1
見学者	7	7	6	6	5	7	9	5	7	7	8	8	82	6.8
入居相談 面接	5	3	4	5	4	5	5	5	5	7	6	6	60	5

・イベント実施報告

	R4.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5.1	2	3	合計	月平均
実施数	14	12	15	15	8	9	16	14	3	16	13	19	154	12.8
参加者	116	179	210	203	143	186	187	132	66	173	212	254	2,061	172

・生活支援バス利用者数

	R4.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R5.1	2	3	合計	月平均
西大寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高の原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
買い物等	98	122	116	109	116	141	125	129	146	102	102	146	1,452	121
合計	98	122	116	109	116	141	125	129	146	102	102	146	1,452	121

(ソ) 平城園診療所

特養の入所者に関しては、医務室看護師と連携し、利用者の健康管理と日常的な診療を行い、疾病予防医療についての運営に努め、重症者については関連病院との連携により迅速に対応した。法人職員に関しては、産業医による定期健康診断の実施及び、衛生管理者との連携を図り、業務による疾病予防と健康管理に努めた。

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種は、法人内施設の入所者及び法人全職員を対象に5回目の追加接種まで終了し、インフルエンザ予防接種も例年通り実施することができた。また、施設におけるコロナ診療体制として、コロナ入院病床の逼迫に備え、入所者が感染した場合にクラスターが起らないよう早急に対応できる診療体制を整備した。

一般外来診療については令和4年度からの診療所の新体制により整形外科疾患も診られるようになり、地域住民にも利用いただける診療所として取り組んだ。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
R4 年度延人数	6,378	112	288	6,778
R3 年度延人数	5,091	93	164	5,348

(タ) 福寿会マミーズ保育園

4 月より従業員枠・共同利用枠 3 名、地域枠 5 名で新年度をスタートした。定期園児の空き枠を一時預かりで受け入れ、6 月には定期 10 名の受け入れを行うことが出来た。

昨年度に引き続き、感染症には厳重な注意と受け入れ時の体調面の聞き取りをしっかりと行い、感染拡大を抑える努力の 1 年となった。8 月以降は定期の受け入れの問い合わせが相次ぎ、登美ヶ丘マミーズ保育園の一時預かりと連携しながら待機園児の調整を行った。

四季を通して園外散歩を取り入れることで、子どもたちの体力づくりと自然に親しむことができた。

また、専門性の向上を目指して、保育士研修を積極的に受講し、保育士間での学びを深めることで、保育士それぞれの意識の向上を目指すことができた。

今後も従業員の働き方に即した保育の提供と、地域に密接した寄り添った保育をご提供していきたい。

・利用者延人数

(単位：人)

	R4. 4		5		6		7		8		9		10		11		12		R5. 1		2		3	
	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時	定 期	一 時
0 歳 児	16	0	18	0	13	0	19	0	14	0	19	0	16	0	14	0	15	0	18	9	16	9	21	19
1. 2 歳 児	114	30	93	17	147	11	116	10	101	6	127	12	129	15	124	7	121	10	107	1	109	0	130	0
3 歳 児	18	7	17	4	18	0	17	1	12	3	17	2	19	4	20	1	16	2	17	2	17	0	0	3
4. 5 歳 児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	148	37	128	21	178	11	152	11	127	9	163	14	164	19	158	8	152	12	142	12	142	9	151	22

(チ)福寿会配食サービス（奈良市委託事業）

一昨年の営業エリアの見直しにより、配達効率は上げることができたが、入院や体調不良からのサービス利用の中止者が多く 1 日あたり 10 食減となってしまうなど、その分の穴を十分に埋めることができなかった。新規利用者獲得に向けての効果的な営業活動も十分に行えず、年間の新規委託件数が昨年より 4 件少なかった。利用者のニーズとしては、土曜日や夕食を求める要望が増えてきている。

コロナ禍での対応については、職員に研修を行うことを繰り返し、万が一の際にも慌てることなく、柔軟に対応することができ、陽性者だからといってサービスを中止することなく、公益事業として丁寧に対応を行うことができ、配達職員のサービスの質は向上したと感じる。

事業計画に挙げていた献立そのものの見直しや、さらなる利用者のニーズにこたえていくために個別対応に関しても改善を図りたい。

新年度にあたってはコロナ対応の過渡期にあたるため、これまで以上に「安心」と「健康」、そして「笑顔」をお届けするための積極的な営業活動にも取り組みたい。

配食サービス実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託 配食数	1,335	1,322	1,351	1,288	1,349	1,308	1,357	1,447	1,434	1,290	1,300	1,457	16,238 (前年比－ 1,303)
自費によ る 配食数	826	755	770	727	773	761	756	727	753	686	672	756	8,962 (前年比－ 1,973)
合計	2,161	2,077	2,121	2,015	2,122	2,069	2,113	2,174	2,187	1,976	1,972	2,213	25,200 (前年比－ 3,276)
配食日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
1日平均 配食数	83.1	79.9	81.6	77.5	78.6	79.6	81.3	83.6	84.1	82.3	82.2	82.0	81.3 (前年比－ 10.5)

(1) 奈良市よりの新規委託件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規件数	2	2	1	4	2	3	6	2	2	3	2	2	31 (前年比－4)

(2) 令和4年度利用者数（令和5年3月31日現在配食者数）

- ・奈良市委託分 98名 (前年比 ＋6名)
- ・自費 63名 (前年比 ＋12名)

(ツ) 平城園委員会活動

① 感染症対策委員会

奈良県感染症情報や厚生労働省からの新型コロナウイルスに関連した資料の配布等、新たな情報を職員全体で共有に努め、統一した感染症予防対策が出来るよう委員を中心に改善する事が出来た。平穏時から、標準的予防策を徹底し、職員出勤時の手洗い・手指消毒の励行、検温、マスクやフェイスシールド・ゴーグルの着用など、濃厚接触に当たらない対応を実践した。令和5年1月、従来型フロアにてクラスターが発生したが、感染拡大防止に向けた対策を行い、2月上旬には、終息することが出来た。また、感染症を持ち込まないための職員及び職員の同居家族の体調不良時の報告体制、職員の意識づけができていたと評価できる。引き続き職員の意識の向上に努める。

② リスク対策委員会

感染症対策により、委員が集まって話し合うことが難しく書面で毎月の事故等の把握を継続して行った。途中より報告書をペーパーレス化し、データで確認することで内容把握の時間差を減らすよう目指した。防犯カメラ設置により、共同スペース内における職員不在場面での事故の確認、検証が更にしやすくなった。

引き続き、事故対策の継続と、身体拘束防止・高齢者虐待の芽を摘むよう、委員会での勉強の機会を設け、率先して各部署へ伝える意識を高めていく。

③ 研修委員会

園内研修については、コロナ禍においても、継続的に実施できるようお茶の水ケアサービス学院のネット配信サービスを昨年度導入。今年度も継続した。参加調整がしやすく、参加率も向上し、人材育成に貢献出来た。コロナ感染対応研修、アンガーマネジメント研修（外部研修受講者による伝達講習会）については、集合研修を実施した。

○令和5年度実習生受け入れ状況

学校名	人数	期 間
青丹学園	2名	令和4.5.16 ～ 6.9 (19日間)
	2名	令和4.9.5 ～ 10.7 (20日間)
	19名	令和4.4.11 ～ 5.19 (各4日間)
京都福祉専門学校	1名	令和5.1.20 ～ 2.15 (20日間)
奈良県介護支援専門員実務研修	1名	令和5.3.27 ～ 3.29 (内3日間)
京都医療福祉専門学校	2名	令和4.5.9 ～ 6.5 (内15日間)
京都医療福祉専門学校	2名	令和4.11.21 ～ 12.11 (内8日間)
日本メディカル福祉専門学校	1名	令和4.4.29 ～ 5.7 (内8日間)

令和4年度 出張・研修結果一覧

今年度の研修についても昨年と同様にオンラインでの会議や研修が中心となった。
オンラインでの研修も定着し、昨年より多くの職員が参加できるようになった。

☆平城園

出張日	人数	出張先	目 的
4月13日	2	奈良県立榛生昇陽高等学校	講演「介護の魅力について」 講師
4月22日	3	eラーニング	認知症介護基礎研修
6月21日 7月5日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度 スーパーバイザー入門講座
7月4日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会令和4年度第1回総会・セミナー
7月6日	1	オンライン	令和4年度奈良市特定給食施設等研修会
7月15日	1	三笑堂京都本店	介護ロボット ICT 展
7月26日～ 7月29日	1	特別養護老人ホーム神の園	ユニットリーダー研修実地研修
7月27日		オンライン	令和4年度 平城圏域ネットワーク会議
8月4日～12 月2日(計5 日間)	1	オンライン	令和4年奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座
8月4日	1	奈良市西部会館市民ホール	安全運転管理者講習
8月9日～8 月12日	1	特別養護老人ホーム神の園	ユニットリーダー研修実地研修
8月19日～ 12月5日 (計6日 間)	2	奈良県産業会館	令和4年度 認知症介護実践者研修
10月18日	1	オンライン	令和4年度平城圏域ネットワーク会議
10月20日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和4年度アンガーマネジメント基礎研修
10月20日	1	オンライン	奈良県内高齢者施設平時からの新型コロナ感染対策意見交換会
10月24日～ R5.2月28日	5	eラーニング	保育士キャリアアップ研修「乳児保育」「保健衛生・安全対策」「保護者支援・子育て支援」
11月2日	1	オンライン	施設内でのコロナ～COVID-19 発生時の対応～
11月8日	2	奈良県社会福祉総合センター	第34回奈良県老人福祉施設職員研修会議
11月10日～ 11日	1	ポリテクセンター奈良	令和4年度障害者職業生活相談員資格認定講習

11 月 12 日	3	社会福祉法人フラワー園	デイサービス施設見学
11 月 17 日	1	田原本青柿センター弥生の里 ホール	令和 4 年度 副安全運転管理者講習
11 月 24 日～ 11 月 25 日	1	オンライン	令和 4 年度ユニットリーダー研修
12 月 8 日	1	オンライン	令和 4 年度 12 月平城地域ケアマネ勉強会「災害時連携について」
R5.1 月 11 日	2	奈良県社会福祉総合センター	令和 4 年度高齢者虐待防止研修
1 月 25 日	2	オンライン	R 4 年度奈良県介護保険認定調査分析事業における研修
2 月 6 日	1	奈良県産業会館	R3 年度奈良県障害者虐待防止・権利擁護研修
9 月 6 日	1	オンライン	第一回全国老人福祉施設大会・研究会議
1 月 19 日	1	オンライン	令和 4 年度認可外保育施設保育従事者研修会
2 月 9 日	2	オンライン	令和 3 年度 顔の見える多職種連携会議中ブロック圏域研修会
2 月 20 日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和 4 年度奈良県老人福祉協議会在宅サービス研修会
3 月 2 日～ 3 月 3 日	1	オンライン	甲種防火管理新規講習
3 月 16 日	3	オンライン	welcome! 福祉職カフェ（オンライン交流会）in spring
10 月 24 日～ R5.2 月 28 日	5	e ラーニング	保育士キャリアアップ研修「乳児保育」「保健衛生・安全対策」「保護者支援・子育て支援」

（テ） 地域公益活動報告

【福寿会コミュニティバスの運行】と【地域清掃】についてはコロナ禍における活動の機会を創出することを前提に、法人として繰り返し協議を重ねた。

福寿会コミュニティバスについては、各事業所における面会の制限自体が完全に解除されることがなく、バスを通じて部署間の人の行き来を管理することの難しさも踏まえ、扱いが2類から5類へと引き下げられるなど、感染症の扱いのフェーズが変わる時期を見計らって検討を重ねていくこととなった。地域清掃については、感染拡大の落ち着いた6月にヴィラ秋篠の入居者と奈良デイサービスのご利用者の交流という意味も含め、1度だけとなったが機会を持つことができた。それぞれからご利用者3名ずつと職員1名ずつが参加し、平城駅前の清掃を通じて地域との交流を図った。新年度に際しては、どちらの項目についても、継続を再開できるように前向きに検討を重ねていきたい。

(ト) 登美ヶ丘マミーズ保育園（定員 90 名）

① 令和 4 年度の概要

保育園は集団での遊びや生活を通して豊かな心や主体的な態度など生きる力の基礎を培う場である。コロナ禍であっても子どもたちにとっては、保育園で遊ぶ「今」が心地よく幸せなものとなるよう、常に感染対策を万全にしながら、出来る限りでの通常に近い形で保育を行ってきた。乳児・幼児別の運動会や保育参観、幼児クラスの閑空への遠足、作品展、生活発表会、また今年度初めて実施の夏祭りなどの行事を行い、子どもたちや保護者の心を潤してきた。日常生活や遊びの中では、好きな事をみつけて、夢中でとことん遊ぶ姿を大切にし、遊びの中での学びを得るようにしてきた。小さな喜びをたくさん積み重ね、保育理念に掲げる「生きる力」「創造力」「温かい心」の育成に努めた。

特色ある活動として、「マミーズ農園」での野菜栽培と収穫、それを給食時に提供してもらい食するといった「食育活動」。今年度は、給食業者より、食の紙芝居や3色食品群の話聞く機会も得た。2つ目は、外部講師による「英語活動」や「体育教室」。遊びを通して楽しみながら「興味」や「親しみ」をもつことができた。3つ目は、法人の高齢者施設の方々との交流。コロナ禍にあり、対面することはできないが、高齢者の方々が制作して下さった玩具で温もりを感じながら喜んで遊ぶことができた。

創立3年目を迎え、園児数も年々増え、現在98名の園児が通園している。0歳児についても4月当初は少ないが月を追うごとに増え10月には定員の18名を満たすことができた。一時預かり保育も口コミで増えつつあり、毎月述べ100名ほどの利用があった。

保育者の専門性の向上の為、園内研修会として、各クラスが年1回の公開保育を行い、保育を通して学び合う研修をもった。研修後、人材育成委員が研修結果をまとめポスターにして掲示し、参加できなかったものも学びが出来るように工夫した。その他、キャリアアップ研修や園内外の研修にも積極的に参加した。

課題としては、出生率の低下と育児休業取得制度の充実で0歳児からの利用者が減少傾向にあることである。現在定員を満たしているが今後は、子育て広場をさらに充実し0歳児の確保に努めたい。

② 園児利用状況

令和4年度 通常保育 利用児童数 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	7	7	10	13	15	17	18	18	18	18	18	18
1歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
2歳児	21	21	21	21	21	20	21	21	21	21	20	20
3歳児	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20
4歳児	17	17	17	17	16	15	15	15	15	15	15	15
5歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

令和4年度 一時預かり保育 利用児童数 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	99	129	111	127	98	96	116	121	107	113	130	130

③ 保育の実施状況

■ 保育について

新型コロナウイルス感染が収まらない状況でも「たくましい子、優しい子、心豊かでのびのびした子、創造力のある子」を保育目標として心も体も元気で主体的に取り組む姿を大切にし、年齢ごとの指導計画に従って保育を進めた。

■ 園行事

新型コロナウイルス感染拡大予防を第一に考え実施した。一部行事日程を変更することもあったがほぼ予定通り行うことができた。

4月	3日	第3回 入園式		17日	内科検診（2回目）	
	19日	内科検診（1回目）		21～25日	作品展	
	19・20日	検尿		21日	玉ねぎの苗植え	
	17日	ムジークフェスト		22日	保育参観日（3・4・5歳児）	
5月	20日	遠足（3歳）公園	12月	30日	内科検診（2回目）	
	20日	遠足（3歳）公園		12日	創立記念日（3周年）	
	30・31日	保育参観（4・5歳）公園		15日	防火避難訓練（奈良西消防署より）	
6月	9日	遠足ごっこ（1・2歳児） 園内	1月	23日	クリスマス会	
	10日	さつまいもの苗植え		27日	生活発表会	
	16日	眼科検診		2月	3日	節分
	23日	歯科検診		6日～10日	個人面談	
7月	7日	七夕集会	3月	2日	ひな祭り行事	
	13日	子育て支援（マミーズ広場）		23日	卒園式	
	14日	交通安全教室		*園内研修 6/30 5歳児 8/31 4歳児（新人） 9/2 1歳児 9/15 0歳児 10/21 2歳児（新人）（教育アドバイザーの指導） 12/9 1歳児（新人）（教育アドバイザーの指導） ※毎月行事 避難訓練・誕生日会・身体測定 英語教室 体操教室		
8月	26日	夏祭り				
9月	20日	祖父母参観				
10月	13日	運動会（1.2歳児）				
	14日	運動会（3.4.5歳児）				
	15日	奈良県立国際高校秋風コンサート 出場（5歳児）				
	18日	奈良県立国際高校家庭科クラブと の交流				
	19日	さつまいも掘り				
	30日	遠足ごっこ（1.2歳児） 遠足 関西国際空港（3.4.5歳児）				
11月	11日	不審者対応避難訓練（奈良西署）				

■ 健康管理

内科検診…年2回実施（4月19日・11月17日）

歯科検診…年1回実施（6月26日）

眼科検診…年1回実施（6月26日）

■ 食育指導（給食）

農園で収穫した野菜や季節の食材、日本の郷土料理を取り入れ、食に関心を持たせ

た。

コロナ禍ではあったが、感染予防対策をしながらクッキング活動（5 歳児）を取り入れ、「作る楽しさ」「食べる楽しさ」を味わいながら食への興味を広げた。

食に関する紙芝居や、3 つの食品群の話を給食委託業者にいただき、食べることへの意欲や関心を持たせるようにした。

■ 安全対策

災害に備え、避難訓練を年間 13 回実施した。火災・地震・水害・不審者対応など、非常時を想定して行った。不審者対応訓練は、警察官の指導の下訓練を行った。訓練後、講話を受けた。

交通安全教室を年間 2 回開催し、歩行訓練と警察官からの安全指導を受けた。（7 月、10 月）

園門に交通安全対策としてカーブミラーを設置した。

危機管理マニュアルを作成し、各場面での危機を想定し、対応の仕方について共通理解する。

④ 会議・研修

■ 定例職員会議（12 回）、リーダー会議（10 回）、処遇会議（食育・安全・人材・特別支援）

子どもが日々安全・安心で楽しい毎日を過ごすにはどの様にしていけば良いかクラスの実態や保護者の様子等を出し合い情報共有した。行事については係を中心に進め、終了後は振り返りを行い、翌年以降の課題をとりまとめた。

処遇会議では、部会ごとに会議をもった。安全部会では、ヒヤリハットの事例から環境の見直しを行った。特別支援会議では、毎月の巡回相談の際に担当者が集まり、講師の助言を仰ぎ、今後の指導に生かすようにした。人材育成会では、研修・勉強会の企画、実施後のまとめを行い全職員が見て学べるよう掲示した。

■ 園内研究会（年間 5 回） キャリアアップ研修（個人） 園内外の研修に参加。

職員の資質向上ため、園内研究会を実施。公開保育と研修会を通して学び合う。

園内で講師を招いての研修を行い、学んだ事を日々に保育実践に生かすようにして行った。

キャリアに応じて各種研修会に参加し、参加後は報告書を提出する。今後は、研修報告会も実施し学び合う機会をもつ。

園内研修では、「危機管理マニュアルの確認」「人権について」「ミニ保育研修」「感染予防対策」等を行った。

不適切な保育については、各保育士が「人権擁護のチェックリスト」を用いて子どもへの関わり方を振り返り「子どもを尊重すること」や「子どもの人権擁護」について意識を高めた。また、研修に参加し、講師の話を聞くことで自身の保育を見直し適切な関わり方を改めて学ぶことができた。

本年度から「語り合い研修」を行っている。新人・乳児・幼児別・クラス別で日頃

の保育の進め方や子どもへのかかわり方等について話合っている。少人数で、思いが出しやすく充実した話し合いになるので定着させていきたい。

⑤ 地域との関わり

■ 0歳児の保護者と妊婦さんを対象に「マミーズ広場」を開催した。保育見学、園の説明、触れ合い遊び等を行った。園を知ってもらい、園に関心をもってもらうために今後も計画したい。

■ 奈良県立国際高校との交流

桜見、「秋風コンサート」への参加、家庭科クラブ生徒との遊び体験等の交流ができた。

⑥ 保護者支援

■ コロナの状況に応じて保育参観や行事への参観を実施したところ大変好評であった。

■ ノンタン等の療育施設との連携により配慮を要する園児の発達支援を実施した。

